

研究紀要

研究主題

「持続可能な未来社会を担う児童の主体的に学ぶ力を高める探究的な学習」



～思考・発信型の授業、児童自身の「問い」を解決する協働学習～



挨拶 児童の主体性を高めるための指導観の転換

豊島区立南池袋小学校 校長 宮澤 晴彦

本校は、令和3・4年度の豊島区教育委員会研究開発指定校として「持続可能な未来社会を担う児童の主体的に学ぶ力を高める探究的な学習」の研究開発に取り組みました。本校の教育目標である「共に生き 共に輝こう」の実現に向けて、本区がすすめるSDGs未来都市の取組と関連させながら、地域の「人・もの・こと」とのつながりを重視し、「児童自身の問いを大切に、自分たちで追究する主体的な学び」の実現を目指したのです。

この2年間の研究で明らかとなったのが、「子供に任せる」ことの大切さでした。「正解は教師がもっている」という指導観からの転換を図り、ファシリテーターとしての関わりを試みた教師の意識は確実に変わり、授業改善につながりました。そして、児童の主体的に学びに向かう意欲と学力の高まりが、意識調査と学力調査の結果から明らかになりました。また、地域の「人・もの・こと」を材とし、地域の方々と一緒に学ぶことを通して、児童が「地域を愛し、SDGs未来都市を目指す豊島区を住みよい町にしていきたい。」という思いをもったことも児童の振り返りから分かりました。本研究は、まだまだ深めるべき点が多々ございますが、皆様にはご高覧の上、ご批正を賜りますようお願い申し上げます。



令和4年10月28日（金）
豊島区立南池袋小学校

研究構想図

○学習指導要領の確実な実施

- ・主体的・対話的で深い学び
- ・カリキュラム・マネジメント

○豊島区教育ビジョン2019

- ・としまSDGs都市宣言
- ・豊島ふるさと学習の充実

<学校の教育目標>

「共に生き 共に輝こう」

～豊かな学びとやさしい心
元気いっぱい夢にチャレンジ～

<児童の実態>

- ・主体性に課題がある
- ・友達と協力の仕方が分からない

<指導者の願い>

- ・地域の伝統文化を教材に生かす
- ・児童主体となる授業改善

<研究主題>

「持続可能な未来社会を担う児童の主体的に学ぶ力を高める探究的な学習」
～思考・発信型の授業、児童自身の「問い」を解決する協働学習～

<主題設定の理由>

豊島区は「としまSDGs都市宣言」を表明し、SDGsの実現に向けた取組に力を入れている。また、本校の児童は、自らが問いをもち課題を深めていく主体的な学びに課題がある。それらのことから、児童にとって「SDGsの視点」と「主体的に学ぶ力」に重点を置いた本研究主題を設定した。副主題では、「児童が生き生きと思考の発信を行う授業」「課題に対して自らが問いをもつ協働学習」を、本校の目指す探究的な学習の具体像として示した。そして、生活科・総合的な学習の時間を中心として、地域材を生かすことで、児童の地域を大切に作る心を育む。また、教師が指導法を改善し児童に寄り添うファシリテーターとなることで児童の主体的に学ぶ力を高め、研究主題の実現に迫っていく。

<研究仮説>

教師が地域の人材・素材を生かし、ファシリテーターとして、児童の問いを引き出して学習支援を行えば、児童は友達と協力して課題に取り組み、主体的・探究的に課題解決していくだろう。

低 学 年	中 学 年	高 学 年
なじみのある地域の人材・素材に児童が会えるように工夫し、児童に生まれた気付きや思いを大切に、体験活動・表現活動を取り入れた学習支援を行えば、児童は友達と一緒に活動し、楽しみながら学習していくだろう。	興味・関心の湧く地域の人材・素材に児童が会えるように工夫し、児童の問いを引き出し、問いを生かした学習支援を行えば、児童は友達と力を合わせ活動し、すすんで課題解決をしていくだろう。	課題意識もてる地域の人材・素材に児童が会えるように工夫し、児童の課題意識を引き出し、思考に寄り添い任せて見守る学習支援を行えば、児童は友達と高め合いながら活動し、自分事として課題解決をしていくだろう。

<学校の目指す児童像>

課題を自分事として捉え、友達のよさを生かしながら協働的に学習を深め、自分の考えを表現・発信していく児童

低 学 年	中 学 年	高 学 年
夢中になって活動し、友達とすすんで関わり、気付きの質を深め、周りの人に自分の思いを表現しようとする児童	問いを見だし、友達の考えと比較しながら聞き、自分の考えを深め、身近な地域に自分の考えを伝えようとする児童	自ら課題意識をもち、友達と高め合いながら、自分の考えを深め、地域や社会に自分の考えをもってつながろうとする児童

<研究の内容>

手だて① 地域の人材・素材を最大限に生かす

- ・各学年の教材の工夫「地域の人・もの・ことの活用」
- ・ゲストティーチャーの有効活用

手だて② 児童の主体性をのばすファシリテーターになる

- ・「聞いて 助けて 任せて 見守る」指導の在り方
- ・思考ツール、学習の足跡、価値付け言葉例

研究の内容（重点）



持続可能な未来社会に向けて

豊島区は、令和2年にSDGs未来都市、自治体SDGsモデル事業に選定され、持続可能なまちづくりを推進するために「としまSDGs都市宣言」を表明しています。その中では、文化の力を生かし、国際的な視点で考え、多様な主体とのパートナーシップにより、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、行動していくことが宣言されています。

今後、SDGsの理念を大切にしたい持続可能な未来社会を担う児童にとって、SDGsの視点を持ち、学習や生活と関連させながら、自ら主体的・探究的に学んでいく力を付けていくことが重要になってきています。本校では、生活科・総合的な学習の時間を中心にすべての授業の中で、SDGsとの関連を児童に意識させることを大切にしながら、校内研究を進めてきました。

児童に未来社会を担う力を付けるために
こんな授業がしたい！！

児童の主体的に学ぶ力を高める

児童自身の「問い」を引き出す

児童に思考させる協働学習を行う

そのための手だてはこれ！！

手だて① 地域の人材・素材を最大限に生かす P3～6

南池袋小学校の周りには、地域を愛し、地域を大切に暮らしている方々がたくさんいらっしゃいます。また、学校のある南池袋・雑司が谷は、鬼子母神・雑司ヶ谷霊園のような歴史のある材、サンシャインシティのような近代的な材に溢れ、伝統と創造が共存する町でもあります。

どちらの材も最大限に生かし、地域への愛着をもつことで、児童の「地域を大切にしたい。」「地域をよくしていきたい。」という思いを育み、問いをもちながら主体的で協働的に学習していく児童を育ててきました。



手だて② 児童の主体性をのばすファシリテーターになる P7～12

南池袋小学校では、生活科・総合的な学習の時間を、「探究的な学習の時間」と位置付け、児童が他教科で学んだことを生かして、自分たちが学習の主体者となり、自分たちで学習をつくっていくことを目指しています。そのために、教師は、ファシリテーターとなり、児童がすすめる学習の支援や促進を行う役割に徹するよう心掛けています。

「聞いて 助けて 任せて 見守る」を合い言葉に、「思考ツールの活用」「学習の足跡コーナーの設置」「児童の活動を価値付ける言葉掛け」の3つの具体策に取り組むことで、児童の探究的な学習を促進しました。



手だて① 地域の人材・素材を最大限に生かす

1年生「地域の自然」との出会い

雑司ヶ谷公園や公園、校内での自然との関わりを通して、季節の変化を感じたり自然や植物に親しんだりする活動に取り組みました。夏と秋の2回に分けて雑司ヶ谷公園に行くことで、葉の色が変わったことや、秋が深まるにつれてどんぐりやまつぼっくりが増えたことなど、児童の中に気付きが生まれました。

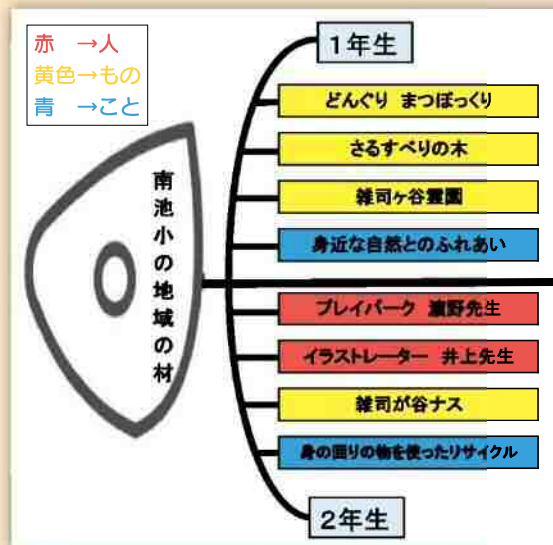
雑司ヶ谷公園で様々なものを見つけた児童は「見つけたものを知らせたい!」「2年生のお兄さん、お姉さんにも見せたい!」という思いをもちました。自分たちで活動内容を決めることで、意欲をもって取り組む姿が見られました。

雑司ヶ谷公園って自然が
たくさんあるんだね。

見つけたものを
だれかに伝えたい。



おもちゃを作って遊んで
もらうのはどう?



2年生「地域の先生」との出会い

「いきものはかせになろう」の学習では、季節ごとの生き物を観察する中で、秋には地域の公園の工作教室に関わっている方をゲストティーチャーとしてお招きし、「すずむし」の観察を行いました。「すずむし」の本の鑑修も行い、ご自身でもたくさんの生き物を飼育されている先生のお話は、児童にとって興味深いものになりました。

「身の回りのものであそぼう、つくってみよう」の学習では、イラストレーターでもあり地域の工作教室の先生でもある方をお招きし、「くす玉作り」に挑戦しました。一人一人のアイデアが生かされ、すてきなくす玉がいくつも出来上がりました。児童のアイデアを「いいね。」と認め、見守ってくれる指導で、児童は意欲的な活動を行うことができました。

よくみて
観察するぞ。

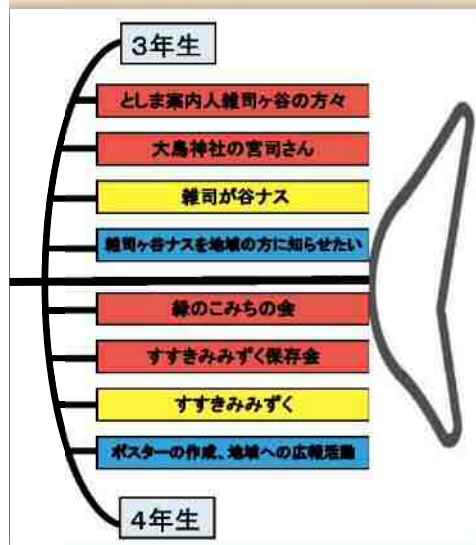
すずむしのことが
よく分かったぞ。

こんな仕組み
なんだ。



3年生「地域の伝統野菜」との出会い

「自分たちの住む地域の名前が付いた野菜がある!」「いつごろまで作られていたの?」「どうしてなくなってしまったの?」地域の伝統野菜である雑司が谷ナスに出会い、育て、調べていく中で、児童はいろいろな疑問をもちました。手がかりを得るために、大鳥神社の宮司さんや雑司が谷公園の方、町会長さんや八百屋さんなど、様々な地域の方に自らインタビューをしました。そして、「雑司が谷ナスをもっとたくさんの地域の方々に知ってもらいたい。」という思いをもち、地域のお店などに自分たちの作ったチラシを置いていただけるように依頼しに行くなど、積極的に地域の方と関わりました。



おいしいナス
なのに、どう
して消滅した
のだらう。

いろいろな人に
雑司が谷ナスを
知らせるには...



料理して食べ
たら、すごく
おいしかった。

4年生「すすきみずく」との出会い

学校の入り口に飾られている大きなすすきみずく。「そういえば、校章にも描かれているよ。」と、児童は早速調べ始めました。校長先生から、「すすきみずく保存会」があることを教えてもらい、児童は、インタビューをしたり、作り方を教えてもらったりするなど積極的に活動しました。保存会の方々の話から「すすきみずく」に対する熱い思いを感じたり、「メンバーの高齢化により、保存会の活動が困難になってきている。」ということを知り、児童は「自分たちにもできることはないか。」という気持ちを持ち、自分たちも雑司が谷の地域の一員であるという意識が芽生えました。

校章にすすきみずく
がデザインされてい
るのはどうしてですか。

保存会の人たちは、どんな
活動をしているのかな。

すすきみずくの作り方を
教えてもらいました。



手だて① 地域の人材・素材を最大限に生かす

5年生「障害者理解」を通して

視覚障害者の方・車椅子バスケットボール選手の方など、様々な人との出会いから障害の多様性を理解したり、点字作成キット・白杖などの道具と関わり、体験を重ねることで障害を自分事として捉えたりするきっかけになりました。

「豊島区をより住みよい街にしたい。」と、バリアフリーマップを作ったり、としまテレビで広報活動をしたりするなど、すすんで地域への発信を行うことができました。

視覚障害者の方へのインタビュー



インターナショナルスクールの先生と交流



サンシャインシティさんの協力



車椅子バスケットボール選手と交流



白杖を使った歩行



車椅子に乗車



点字作成キットを用いて手紙を作成



音のなるボールでブラインドサッカー



タブレットで情報収集



ユニバーサルデザインの会社へのインタビュー



ユニバーサルデザインの会社へのインタビュー



インターナショナルスクールの児童とオンライン交流



区役所等でのアンケートによる課題調査



ランゲージスクールへのインタビューによる課題調査



作成したバリアフリーマップをサンシャインに展示



としまテレビで広報活動



手だて② 児童の主体性をのばすファシリテーターになる

○南池袋小におけるファシリテーターとは

「**聞いて** **助けて** **任せて** **見守る**」
「**与えて** **させて** **見回る**」指導からの脱却

ファシリテーターとしての教師の在り方

- ① 1時間の流れを児童に決めさせる。
- ② 任せると決めたら任せきる。
- ③ 児童のありのままの様子を見守り、口を出さない。
- ④ 生活科・総合的な学習の時間で児童に任せるために、他教科等の授業で、確実に知識・技能を身に付けさせるよう指導する。
- ⑤ 導入では前時までの学習を思い出す手助けをする。
- ⑥ 次の課題に気付かせる言葉掛けや仕掛けをする。
- ⑦ 振り返りで、よさを価値付ける。(課題を確認する。)
- ⑧ うまいいかなかった経験も振り返りをして、次へつながる学びにする。

○南池流 1時間のファシリテーターの振る舞い

〈導入〉前時を振り返り、
めあてを児童から引き出す。



聞いて

【聞いて】
今日何をする時間にするか、
何を目標にするか、
決めるのは児童。
“思い”を聞いて引き出す。

助けて

【助けて】
児童の学習の足跡を掲示。
主体的な学びのためには準備が必要。

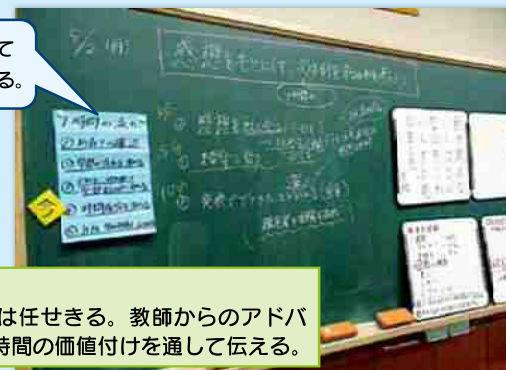


学習の足跡

任せて

〈展開〉内容に合わせて1時間の流れを児童と考える。

1時間の流れを掲示して
見通しをもてるようにする。



【聞いて】
話し合いの時間配分や必要な
学習用具は何を使うかについて、
児童の考えを聞く。

【任せて】
児童と決めた時間は任せきる。教師からのアドバ
イスは振り返りの時間の価値付けを通して伝える。

〈展開〉児童の様子を見取る。児童から助けを求められれば
助言をする。



【助けて】
児童が困ったときは教師から提案を
する。「こういう進め方はどう？」と、
意見を押しつけないよう注意する。

【見守る】
児童の学習の姿を見取る。
「〇〇さんは、思考ツールの性質を
よく理解して使い分けているな。」
「何を価値付けようかな。」
任せた時間、教師はじっと我慢。



見守る

〈まとめ・振り返り〉その時間の活動を評価付ける。
上手いできないときは修正する。

【助けて】
児童の学習を価値付ける。
よさをしっかりと伝えたと
ともに課題も伝える。



「誰に伝えたいかを意識しながら話し合
いできていたのがよかったね。」
(価値付け)
「今日の進め方はどうでしたか？」
「次回はどんな活動をしますか。」
(課題を引き出す)

手だて② 児童の主体性をのばすファシリテーターになる

手だて②の具体策①

思考ツール

自分の考えを広げたり整理したりするときや、友達と考えを共有する時に、考えを視覚化するために思考ツールを活用してきました。各学年の各教科で活用できる場面に紹介したり、使ってみたりしながら、使える思考ツールを増やしています。活用する思考ツールも、使った思考ツールの掲示の仕方も、各クラスの児童が使いやすい方法を学年で相談しながら、児童の実態に合わせて取り組んできました。高学年では、使いたい場面で児童がそれぞれの思考ツールの特性を理解した上で、有効なものを選んで使えることを目標にしています。

低学年（絵で仲間分け）



中学年（みんなの考えを整理）



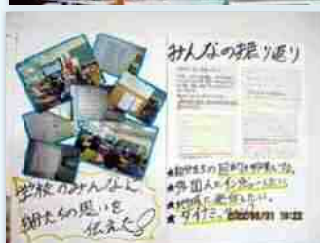
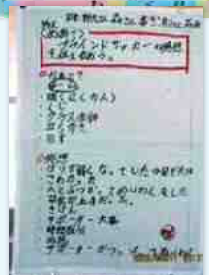
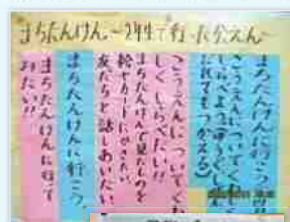
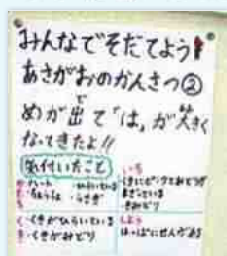
高学年（使ったツールを教室に掲示）



手だて②の具体策②

学習の足跡

生活科・総合的な学習の時間では、その単元で「どんな流れで学習してきたか。」「どんな思いで活動してきたか。」をクラスのみんなが分かっていることがとても大切です。今までの学習の流れを分かっている児童がいると、授業で「何の話し合いをしているのか。」「なぜそんな話し合いが必要なのか。」が分からず、話し合いに参加できなくなってしまう。そこで、本校では「学習の足跡」を掲示するようにしています。掲示することで児童が今までの学習を振り返ったり、次の学習に進む際の助けになったりします。児童が見て、「何を、どのように、学習してきたか。」が分かりやすいように、各クラスで工夫をして色々な方法で掲示をしています。



手だて②の具体策③

価値付け言葉例

学習の内容や方向性を児童が、話し合いながら進めていく授業を行う場合、教師は「任せて・見守る」ファシリテーターとしての役割に徹することが重要になってきます。「任せて・見守る」では教師は口を出さず、児童の学習の様子を見取り、どんな力が付いているか、何を価値付けするかを考えます。そこで価値付けの質を高めるために事前に児童の様子を予想し、何をどのように伝えるかを整理するために「価値付け言葉例」を用意することにしました。教師から児童への授業の終末での価値付けを充実させることが、生活科・総合的な学習の時間で「児童一人一人が自分で考え、学びの質を高めていく」ための手助けになると考えています。



本時の主な学習場面にしほり、整理しよう。

どんな様子の児童がいそうか、例を出して3パターン予想してみよう。



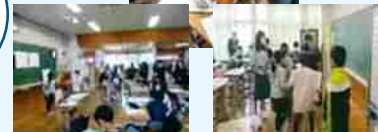
価値付け言葉例

場面	児童の様子	終末での価値付け言葉例
めあてを確認し、学習の見通しを立てる。	ア「意見が出なさそうところはグループ活動を取り入れた方がよい。」など、グループ、全体で話し合うよさが分かっている。	「この学習の流れはどうだった？意見が出づらいうところグループ活動を入れたのがよかったね。」
	イ「とりあえず、グループで話した方がよい。」など、理由の筋が通っていない。	
	ウ「全体で考えよう。グループで話し合う。」など、なぜその形態がよいのか理由が言えない。	
体験の感想の短冊カードを黒板に出し合う。	ア「見やすくするために、似ているカードを並べ替えてグループに名前を付けよう。」など、グルーピングして名前を付けるよさが分かっている。	「カードを並べ替える前と後でどんな違いがありましたか。黒板を参考にしながら、話し合いが盛り上がっていたね。」
	イ「見やすくするために、似ているカードを並べ替えよう。」など、グルーピングするよさが分かっている。	
	ウ「見づらけれど、どうしたらいいかはよくわからない。」など、グルーピングするよさが分かっている。	
黒板のカードを見ながら話し合い、今後の活動を決める。	ア「難しかったけれど、選手は上手にできている。何かコツがあるのかな。」など、選手のことを想像し、上達するための方法を考えようとしている。	「選手の人は最初からうまかったのかな？コツや練習方法を調べて、うまくできるようにしたらブラインドサッカーがさらに楽しくなりそうだね。」
	イ「難しいという意見が多いから、ルールを簡単にしたらどうかな。」など、自分たちに合わせた工夫をして、バラスポーツを楽しめないか考えようとしている。	
	ウ「難しいから、もうやらない方がいい。」など、自分たちには無理であるとあきらめてしまう。	

予想と違ったことが起こった場合でも、価値付けできるように、事前に授業のポイントを押さえておこう。



ア、イ、ウのどの児童にも向けたものになるようにしよう。



押し付ける価値付けにならないようにしよう。

南池袋小の総合的な学習の時間の単元の作り方

前年度の3月の研究全体会で1年間の総合的な学習の時間の振り返りを行います。そこで、探究課題についても再検討し、学校の特色や児童の実態、学年の系統性も考慮した上で次年度の探究課題を設定します。4月は総合的な学習の時間の準備期間として、児童がどのような地域の材と関わり、どのようなサイクルを通して、どのような力を付けていくのかを具体的にイメージしながら学年で相談を重ね、単元作りをしていきます。

※ 次の活動へ向かう児童の思いや願い：
次のサイクルへのきっかけとなる児童の思い：
※ 【課】：課題設定 【情】：情報収集 【整】：整理・分析 【ま】：まとめ・発表

サイ クル	主な学習活動	予想される児童の思考	評価 知 思 主
第1サイクル	【課】 - 東京パラリンピックを思い出す。 - ブラインドサッカーを体験する前の気持ちを書く。 - ブラインドサッカー体験をする。 【情】 - ブラインドサッカーのこつを考えたり、調べたりしてみよう。 - インターネットで調べる。 - 動画を見てみる。 【整】 - チームごとに練習をする。 - チームごとに練習をする。 【ま】 - 試合をして、整理した作戦を試してみたい。 - 試合をして、整理した作戦を試してみたい。	- パラアスリートってすごいな。 - できるかな不安だな。 - 目をつがつて動くのが思った以上に怖い。 - 面白いから、またやりたい。 - どうやってらうまくなるのかな。 - 目が見えないのに、激しい動きだ。 - もっとチームでパスができるように練習したい。 - ボールの音や仲間や仲間の声に注意することが大切だ。 - 点を取るために作戦を立てよう。 - 試合をして、整理した作戦を試してみたい。 - ボールが見えないけれど、ボールを止めることができた。 - いつ来るかわからないボールを止めるってやっぱり怖い。	○
第2サイクル	【課】 - 自分たちの動画と選手の動画を見比べる。 - 気付いたこと・思ったことを基に課題を設定する。 【情】 - 選手にインタビューしてみたい。 - 近くのブラインドサッカーチームを調べる。 - 交流できないかアポイントメントを取る。 - インタビューしたい質問をまとめる。 - 選手にインタビューする。 【整】 - 障害があってもなくても、楽しめるブラインドサッカーってすごいな。 - インタビューしたことを、思考ツールを使って整理・分析する。	- パラリンピックの選手の試合は迫力があるな。 - どうしてこんなに激しく動けるのかな。 - 豊島区にブラインドサッカーのチームはあるのかな。 - どんな練習をしているのかな。 - サッカーを始めたきっかけも知りたいな。 - インタビューの内容を整理して、他の誰かにも伝えたい。 - 聞いたけど、分かったとは言えない。まだまだ障害者理解はできていないよ。 - 障害者の気持ちになれる体験をしたい。 - もっと知りたい。	○

次の活動につながる児童の思考を大切にしています。

次のサイクルへのきっかけとなる児童の思いは太枠で示しています。

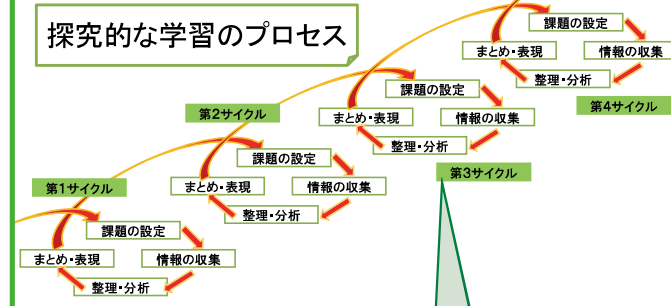
サイクルや活動が途切れないように、単元計画に区切りの線はありません。児童が活動につながりをもてるように意識して計画を作っています。

ゲストティーチャーとの事前打ち合わせでは、「総合的な学習の時間」の特性を理解していただいた上で、いつ、どのようなタイミングで児童と出会うのかを検討しスケジュールを立てます。

探究的な学習のプロセスを意識して、全学年1単元70時間で計画しています。

学習サイクルが身に付くように年間で3～4回以上のサイクルを回していきます。

探究的な学習のプロセス



第1サイクルより第2サイクル、第2サイクルより第3サイクルと、探究的な学習サイクルが進むごとに児童の資質・能力が高まるように意識しています。

1学期末、2学期末には、単元計画を見直し、方向修正していきます。また、計画からずれた実際の活動を記録しておきます。

児童に任せているとクラスごとに計画がずれていくことがあります。その場合、ずれたところからクラスごとに別の計画を作成していきます。

2月・3月になると、その年度の単元実践が完成します。それがそのまま次年度の参考資料となります。

第3サイクル (視覚障害者の方の気持ちを知ろう。25時間)	【課】 - 目の見えない生活を知るために、行った方がよい体験を考える。 - 杖をついて歩いている人を見たことがあるよ。 - 盲導犬を連れていている人もいるよね。 - 体験するために必要な準備をしよう。 【情】 - 視覚障害者の方の気持ちが分かるように体験してみよう。 - 杖をついて歩いている人を見たことがあるよ。 - 盲導犬を連れていている人もいるよね。 - 体験するために必要な準備をしよう。 【整】 - 町の人に伝える内容を整理する。 - 点字ブロックを塞がないことは必ず伝えよう。 - 区役所の人に話を聞けないかな。 - 視覚障害者の方に聞いてもらって、伝えたい内容がずれていないか確認しよう。 - 町の人たちに調べたことを伝える発表会を開こう。 - まずは保護者に伝えて、そこから職場に広げていこう。 - 町を変えるっていうのは難しいんだ。 - 他に私たちにできることは何か。 【ま】 - 町の人に調べたことを伝える発表会を開く。 - まずは保護者に伝えて、そこから職場に広げていこう。 - 町を変えるっていうのは難しいんだ。 - 他に私たちにできることは何か。
第4サイクル (区役所・障害者の方との交流。25時間)	【課】 - これから取り組んでいきたい課題を考える。 - 車いすの人や聴覚障害は聞いたことがある。 - どんな障害があるのか調べる。 - 障害について疑似体験をしてみる。 【情】 - 町の人たちにも、もっと障害のことを知ってもらいたい。 - 知ってもらいたい情報を集める。 - 豊島区に住んでいる障害者の方にインタビューする。 【整】 - 地域の人たちに知ってもらいたい内容と伝える方法を整理しよう。 - 集めた情報の中から知ってもらいたい内容と伝える方法を整理する。 - 体験して感じてもらいたい内容。 - ブラインドサッカー体験をしたらどう 【ま】 - 多くの人に体験してもらって、障害者の人たちの笑顔が増える町にしたい。 - 車いすブース、白杖ブース、色んなブースで色々知ってもらえな

● 児童の姿 1年間のまとめ ●

1 年

児童と共に学習計画を立てたり、思いや願いを引き出したりすることで、一人一人が自分事として活動に向かう姿が見られました。

近くにこんなに自然があったんだね。

紙芝居とか図鑑にして伝えたいな。



4 年

雑司が谷に伝わる史跡や文化について調べたり、地域玩具を作ったり、話を聞いたりする活動を通して、自分たちも雑司が谷の地域の一員であるという気持ちをもつことができました。そして、伝統文化の継承に自分たちは何ができるか、考えることができました。

すすきみみずくのことをたくさんの人に知らせたい。

地域の役に立ちたいなあ。



2 年

児童の「〇〇したい」という気持ちを大切に、学習を進めていくことで、友達との関わりも増えどの子も意欲的に活動し、たくさんのアイデアが生まれました。

どんなおもちゃを作ろうかな。

この材料でいいかな。



うまくいくかな。

5 年

体験をしたり、話を聞いたり、地域について調べたりする活動を通して、障害のある方も暮らしやすい地域にしようという思いを深め、課題解決のための提案をすることができました。

目の不自由な人は、どんなことに困っているのかな。



学校で募金をしてみよう！
区役所の方に提案しよう！

3 年

野菜という児童の身近な存在でありながら、一度消滅した歴史をもつ「雑司ヶ谷ナス」を通して地域と関わる活動をすることで、「もの」→「人」→「自分との関わり」と、児童の思考が広がりました。

自分で育てたい！



地域の人は知ってるのかな。

6 年

地域のインターナショナルスクール、ランゲージスクールなどと関わり、児童が自ら課題を見付けることでどうすれば課題を解決できるのか真剣に考えることができました。また、必要に応じて思考ツールを選び、活用する力も身に付いてきました。



ランゲージスクールの人たちがもっと暮らしやすくするにはどうしたらいいかな。

成果と課題

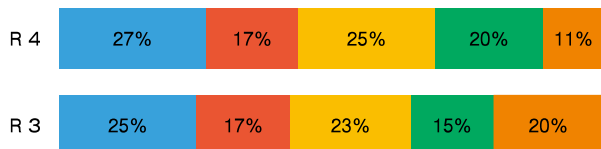
令和3年6月児童数538名

令和4年6月児童数550名

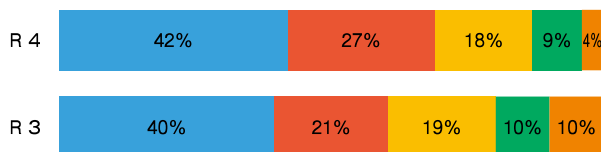
(1) 意識調査

令和3・4年度 全学年対象アンケート

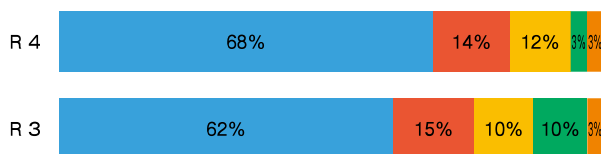
自らすすんで考えを發表していますか？



自らすすんで友達と話し合いをしていますか？



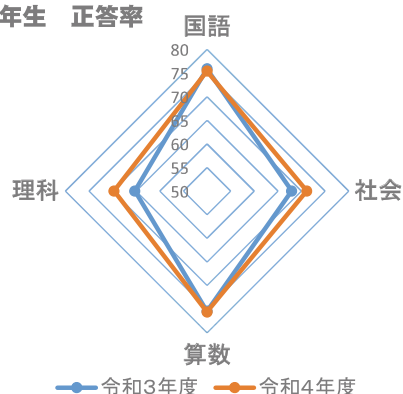
自分の住む地域は好きですか？



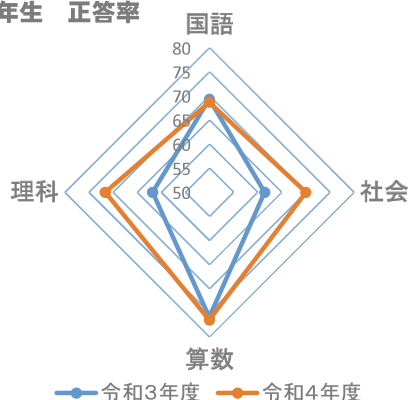
■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ やや思わない ■ あまり思わない

(2) 豊島区基礎的・基本的な学習内容の定着に関する調査

現5年生 正答率



現6年生 正答率



成 果

- ・地域の人材・素材を生かすことで、「自分の住む地域が好き」という児童が増えた。
- ・本校の課題であった理科、社会の学力の向上が見られたことから、活用力の向上や思考力の高まりにつながった。
- ・「聞いて 助けて 任せて 見守る」を意識し、教師がファシリテーターになることで「自らすすんで考えを發表している」「自らすすんで友達と話し合いをしている」という児童が増え、児童の学習が主体的になってきた。
- ・思考ツールの活用や学習の足跡の取組で、児童の話し合いが活発になった。
- ・価値付け言葉例の取組を通して、教師の適切な声掛けによる児童の活動の活性化が見られ、授業中の児童の様子を見取り価値付けることの有用性が明らかになった。
- ・児童のSDGsを意識した発言が増えてきた。

課 題

今 後 の 展 望

- | | |
|---|---|
| ・地域の人材・素材はまだ未開拓のものがある。 | → 研究の成果を生かし、今後も、学校全体で育てたい児童の資質・能力の向上に向けて、地域の人材・素材を積極的に活用した単元開発に取り組む。 |
| ・生活科・総合的な学習の時間で発揮する資料活用能力、ICT活用力を各教科で高めていく必要がある。 | → 他教科等で資料活用能力、ICT活用力を高められる授業を展開し、他教科等で学んだことを生活科・総合的な学習の時間に生かせるようにする。 |
| ・課題を自分事として捉えることができず、活動に参加することに消極的な児童への支援の工夫を考える必要がある。 | → 生活科・総合的な学習の時間以外の授業でも教師がファシリテーターになる場面を設定することで、児童が主体的に取り組める授業を目指していく。 |

副校長 與那霸 早苗

教職員は試行錯誤をしながら研究を深め、ファシリテーターとして本テーマに迫ってきました。時には迷うこともありましたが、講師の先生から「子供たちの学びの姿からファシリテーターとしての視点が育ってきている。」との激励を受け、これまでの研究の進め方に自信をもつことができました。

本日皆様に、本校の研究を提案させていただきました。研究を通して見えてきた課題に関して、今後も研究を進めていく所存です。結びに、寺崎千秋先生はじめ、ご指導いただきました諸先生方、豊島区教育委員会の皆様に心より御礼申し上げます。

○寺崎 千秋 先生（一般財団法人教育調査研究所）

1年	平田 美結 様 (サンシャインシティ)	近藤 千咲 様 (サンシャインシティ)
2年	濱野 和雄 様	井上 泰道 様
3年	清水 雄介 様 (大鳥神社宮司)	としま案内人雑司ヶ谷の皆様
4年	近江 正典 様 (鬼子母神、法明寺住職)	
	森 みどり 様 (民生児童委員)	松浦 和代 様 (都家庭支援員)
	すすきみみずく保存会の皆様	緑のこみちの会の皆様
5年	千葉 良昭 様 (豊島区障害福祉課)	栗原せい子 様 (豊島区障害福祉課)
	小西 祐一 様 (株式会社リンクス)	前田 大輔 様 (内藤義肢製作所)
	武居 悦子 様 (盲人福祉協会)	市原 寛一 様 (盲人福祉協会)
	飯野 道代 様 (飼育奉仕者)	吉川千恵子 様 (飼育奉仕者)
	武者 廣平 様 (武者デザインプロジェクト)	
	伊賀 星史 様 (カラーユニバーサルデザイン機構)	八方 順子 様
	ブラインドサッカーチーム フリーバードの皆様	
6年	安藤 千賀 様 (としまテレビ)	植田 麻衣子 様 (サンシャインシティ)
	葉袋奈美子 様 (日本女子大学家政学部教授)	
	豊島区広報課 学習・スポーツ課の皆様	目白図書館の皆様

[illegible]